令和４年度学校経営計画に対する中間評価報告書

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の取組
1　生徒指導の方針・基準に一貫性を持ち、毅然とした指導で、基本的な生活習慣の定着と規範意識の高揚を図る。	①　挨拶を含めた所作の指導を、ＳＴ・授業・休み時間、「遅刻ゼロ・鶴高挨拶運動」で指導する。	学校に関係する方々にはもちろん、生徒間の挨拶も積極的にできる生徒の割合が、 A　90%以上 B　85%以上90%未満 C　80%以上85%未満 D　80%未満	93.2% 判定A	自らすすんでよく挨拶している生徒は全体で93.2%となっており、昨年同期と比較して0.4%増加した。上級生にはすでにあいさつが定着しており、1年生に対して集会等で指導した結果、高い割合を維持できたものと思われる。 ただその中で1年生の挨拶をしている割合が他学年に比べ若干低い。機会をとらえて挨拶について指導していくとともに、「遅刻ゼロ・鶴高挨拶運動」等で教職員がまず模範となって実践していく。
	②　望ましい服装容儀や規範意識の向上に対して全教職員が授業や学校生活全般、「遅刻ゼロ・鶴高挨拶運動」で積極的に指導にあたる。	服装容儀等について積極的に声かけをしている教職員が、 A　95%以上 B　90%以上95%未満 C　85%以上90%未満 D　85%未満	100% 判定A	服装容儀や規範意識を高めるため積極的に声かけを行っている教員が100%であった。教職員が、日頃から生徒の様子を注意深く観察し、少しの変化を敏感に捉えている様子が窺える。 今後は生徒指導課より、指導する際の基準を明確に提示し、それに基づいた生徒観察、生徒理解に努めていく。
	③　規則正しい生活習慣と時間を守らせることを指導することで、遅刻の減少に努める。特に朝の始業5分前に着席するよう強く指導する。	3回以上遅刻した生徒の数が、 A　30人未満。 B　30人以上35人未満。 C　35人以上40人未満。 D　40人以上。	17名 (7月現在) 判定A	1学期のみの集計なので、現時点での評価は難しい。 今後は気温の低下、また悪天候の日が多くなっていくと思われるため、それを念頭に置いて行動することを呼びかけたい。 ただ、遅刻の多い生徒に対しては、反省文を課す指導ではなかなか改善がみられないため、教育相談、学年団等と連携を密にしカウンセリング等を含めた指導体制の拡充に努めていく。
	④　「生徒チェック用紙」を活用し、全職員が連携して「いじめ」が根絶されるよう努力する。	「いじめがなく安心できる学校である」と感じている生徒の割合が、 A　95%以上 B　90%以上95%未満 C　85%以上90%未満 D　85%未満	82.4% 判定D	アンケート調査の結果、いじめがなく安心できる学校であると感じている生徒は全体で82.4%となっている。また、1学期に発生したいじめは2件であった。特に2，3年生に安心できないと感じている生徒が見られ、いじめにならないまでも、生徒間のからかいや戯れ合いがあるものと思われる。 早期発見・早期対応のため、いじめアンケートだけでなく、いじめ不登校問題対策委員会等で生徒の様子を共有、また生徒チェック用紙をしっかりと活用する等、日頃から注意深く観察していきたい。また、教職員の言動が誘因となっていじめを触発することがないように教職員自身が確かな人権感覚を身に付けるとともに、日頃の何気ない言動にも細心の注意を払うことを呼び掛けていく。
	⑤　学校の環境美化に積極的に努め、校舎内外の環境美化も取り組むよう指導する。	校舎内外の環境美化にも取り組んでいる生徒の割合が、 A　90%以上 B　85%以上90%未満 C　80%以上85%未満 D　80%未満	81.9% 判定C	アンケート調査の結果、校舎内外の環境美化にも積極的に取り組んでいると回答した生徒は全体で81.9%となっており、C判定となった。後期は前期に3回実施の「鶴高クリーン作戦」を継続指導するとともに、整備委員による昼休みの放送やポスター掲示により、全校生徒への啓発活動を行うことで、校舎内外の環境美化に努めていく。

学校関係者評価委員会の評価	校内ではしっかりとした挨拶が出来ているものと感じていたが、地域の催事で携わる機会があった際に自分に自信がないためか、やや覇気のない挨拶もみられた。環境が変わっても相手に受け入れてもらえる挨拶をしていくために、自信を持たせるような指導を進めてほしい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	鶴高挨拶の指導を今後も継続していくが、マナーとしての挨拶以外にも、挨拶が持つ様々な意義や効用の観点から指導のより充実を図っていく。

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の取組
2　生徒が安心して学べる授業づくり（授業のユニバーサルデザイン化）を推進するとともに、家庭学習時間の確保や読書量の増加を図り、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	①　様々な背景や問題を抱えた生徒を理解するために年5回の面談週間を設け、学年や教育相談委員会で得た情報を、学校外からも助言を得ながら、教科会でも共有し、適切に支援できる能力の向上を目指す。	個々や集団に応じた授業を行うために、担任や学年団・教育相談等と生徒情報を相互に共有している教職員の割合が、 A　95%以上 B　90%以上95%未満 C　85%以上90%未満 D　85%未満	88.5 % 判定C	多くの先生方が、担任や学年団等と連携をとり生徒情報を共有して学習指導をしているが、昨年度より減少している。特に「そう思う」の割合が減少（60.6%⇒34.6%）している。担任と教育相談だけでなく、保護者懇談会をうけての情報等担任と教科担当者との情報交換をしていく必要がある。
	②　話し合い活動を中心とした生徒が主体的に参加するための授業力の向上を図る。1人一台端末の利用を勧め、実践例を共有し活用を促す。各教科で主体的・対話的で深い学びの計画・実践・改善を行う。	発表や話し合い活動等積極的に授業に参加した答えた生徒の割合が、 A　90%以上 B　85%以上90%未満 C　80%以上75%未満 D　800%未満	80.1% 判定C	感染症対策等もあり、グループ活動や話し合い活動が思うようにできなかったところもあるが、全体的に講義調の授業から発表や話し合い、教え合い等主体的な取り組みの場面が増えてきていると思う。1年生の積極的な参加が昨年度より低くなっており、今後1年生を中心に発表や話し合い活動等、達成感を持てうるような場面を増やすように、また、ＩＴＣ機器等を用い主体的に取り組める場面を増やすように指導したい。
	③　個に応じた進学指導、就職指導を充実させることにより、自尊感情を育み、希望進路の実現を果たせるよう努力させる。	年度末の進学状況において、国公立大学合格者が、 A　5名以上 B　3名 C　1名 D　0名	－	・国公立大志望者11名(8月現在)が、授業に加え、補習、個別指導を中心に各自の志望先に合わせた学習を進めている。 ・チューターの指導で志望理由を確定しつつあり、今後、出願、面接指導へと進めていく予定である。
		3月末の就職状況において、就職希望者の内定率が、 A　100% B　95%以上100%未満 C　90%以上95%未満 D　90%未満	－	・求人件数は部品加工・製造メーカーを中心に例年になく好調である。ただし、女子が希望している食品系製造や食品販売職が昨年同様に少なく、選択に苦労している生徒が見られる。 ・就職指導（面接練習や応募前訪問によるミスマッチの解消等）は例年通りのスケジュールで実施し、順調に仕上がってきていると感じる。 ・コロナの収束が見通せない状況が続いているので、早期に内定をいただけるよう、常時心がけて指導にあたっている。
	④　家庭学習調査を行い、その状況を分析し、課題の出し方を適切に工夫したり、担任が面談したりすることで家庭学習の習慣を身につけさせることにつなげる。	家庭学習の時間を確保している生徒の割合が、 A　60%以上 B　50%以上60%未満 C　40%以上50%未満 D　40%未満	83.3% 判定A	特進クラスを中心に、予習・復習や週間課題等を課し、家庭学習の時間を確保するよう指導している。日常の授業と計画的に関連づけた家庭学習の定着を継続していく。普通クラスにおいても予習・復習等、授業と関連づけた学習習慣の形成と併せ、漢字練習や検定の勉強等、生活リズムの中に家庭学習時間を位置付けたり、キャリアアップや生涯学習の視点からの習慣化を図れるよう指導を継続していく。
	⑤　情報科、商業科における各種検定・資格取得を推進するとともに、より上級資格取得に向け挑戦する意識付けと対策講座等、指導体制の充実を図る。	学年及び各教科が目標とする各種検定資格に対する取得率が A　90%以上 B　80%以上90%未満 C　70%以上80%未満 D　70%未満 ※合格者数／受験者数	－	7月末現在、全商ビジネス計算実務検定1級20.0%(合格者数2/受験者数10)、2級36.3%(4/11)、3級63.6%(7/11)名の取得者を出すことができた。全商ビジネス文書実務検定では、1級40.0%(2/5)、2級51.5%(16/ 31)名、3級68.6%(24/35)の取得者を出すことができた。これらの検定については2学期にもう一度検定が行われるため、取得者が増加するものと予想される。また、9月には全商情報処理検定、3学期には全商簿記実務検定、商業経済検定も行われるが、より上級資格が取得できるよう学習意欲の向上や学び方の習得、学習習慣の形成を学年団と連携しながら図っていく。
	⑥　学校図書室の取り組みを活性化し、積極的に読書に取り組ませる。朝学習で読書を取り入れ、本に触れる機会として図書館での貸し出しを促す。	図書室での年間貸出冊数が、 A　1,400冊以上 B　1,200冊以上1,400冊未満 C　1,000冊以上1,200冊未満 D　1,000冊未満	－	7月末現在312冊であり、前年度同期の378冊の8割程度に留まっている。貸出する生徒が偏っていることや、昼休み等の来室数は堅調ながらも、授業時の利用が少ないことが要因である。教科や朝学習を通して、図書室で一度も借りたことのない生徒を中心に貸出を行い、読書を促す必要がある。 一方で、スポーツ科学コースや個別指導等で調べたいことや探している資料等の司書への問合せについては増加傾向にあり、貸出のみならずレファレンス機能面の拡充にも努めることで利用者増を目指していく。

学校関係者評価委員会の評価	家庭学習の時間確保については高評価となっており、今後も指導を整備充実していくべきである。また、自分に自信がなく内向的な生徒に対しても、周囲の人に役立つことや困難を克服すること、自己の可能性を信じること等、各種を通じて、自信を付けさせ自己肯定感を高める指導を推し進めていくべきである。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	GIGAスクール構想に則り、習熟度別や少人数での授業、個別指導、部活動、学校行事等の各場面で1人1台端末を有効に活用することで、コミュニケーション能力の涵養を図ることで、自己肯定感を向上させるとともに、主体性を持ち学んでいく態度を育んでいく。

重点目標		具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の取組
3 教育活動の速やかな情報発信と地域社会と連携・共同した活動の推進で、地域や保護者から信頼される学校づくりに努める。	①	中学生やその保護者に対して従来のホームページに加え、新たにＳＮＳアカウントを設置・運営し、学校行事や部活動の大会情報、日常の学校生活等をよりタイムリーに公開することで、本校への理解を深め志願者の増加をめざす。	ＳＮＳアカウントのフォロワー数が A 500件以上 B 400件以上500件未満 C 300件以上400件未満 D 300件未満	412件 判定B	4月のスタート段階でのインスタフォロワーが170件で、約240件増の412件にも及んでいる。このSNSの拡散効果が高く、現役中学生や保護者の年代からも、学校の様子や生徒の活動場面を具体的に見ることができ、本校の特色や魅力をよく知ることができるという意見が少なくない。今後は広報担当係と若手職員だけでなく、教職員全体での情報収集に磨きをかけ、さらなる発信力アップに努めていきたい。 学校ＨＰの閲覧数も、月平均で19,524件と関心の高さが伺える。前年度との月別比較では、5月が若干下回ったものの、7月は野球部の活躍等により約10,000件を上回る数値となり、本校をアピールする上で大いに貢献した。 今後も細目な更新を行い、本校の生の姿を発信出来るように努めていく。
	②	「総合的な探究の時間」の「地域探究」をとおし、生徒が地域社会における課題に気づき、その問題の本質を考え、解決方法の検討、協力団体からの検証に取り組む学習活動を充実させていく。	「総合的な探究の時間」の地域探究の活動において、地域と連携・協働した活動に積極的に取り組むことができた生徒・教職員の割合が、 A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	生徒:31.3% 判定D 教職員: 73.1% 判定B	活動に参加したと感じている生徒が少なく、特に1年生の割合が20.6%と低い。1年前半は概要説明や探究活動の基本を習得する時期であり、今後行う予定の就業体験や地域探究活動を通して、地域と連携する実感を持つようになると考える。3年生においても、進路先決定後に地域の課題に向き合う活動を行う予定である。
	③	生徒・教職員・保護者が一体となり、手取川歩行や花いっぱい運動、エリアクリーン活動等を通して、地域のボランティアや小中学校と連携した活動に取り組み、地域とのつながりを深めていく。	学校行事や課外活動において、地域のボランティアや小中学校と連携した活動に取り組むことができたと思う生徒・教職員・保護者の割合が、 A 70%以上 B 60%以上70%未満 C 50%以上60%未満 D 50%未満	生徒:31.3% 判定D 教職員:73.1% 判定A	活動に参加したと感じている生徒が少なく、特に1年生が20.6%と低い。一方、昨年度に比較し、教職員の意識は高くなっている。花いっぱい運動の水やりをなるべく全生徒が関わるように指導したり、地域探究会の取り組みを生徒全体に知ってもらう働きかけをしていく等、部活動単位以外でも地域連携の取り組みを促したい。
4 教職員自ら、これまでの働き方を見直し、限られた時間の中で、教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保できるようにする。	①	各教職員が自らの勤務時間や業務内容を的確に把握するとともに、毎月の業務の流れの中で先を見通し、区切りを意識した計画的・効率的な遂行に努める。	毎月2回設定されている定時退校日を意識し、実行することができた割合が、 A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	42.3% 判定D	定時退校日を意識し実行できた職員の割合は42.3%と前年同期比12.2ﾎﾟｲﾝﾄの減少となった。80時間超過者推移では、4月は8名（同比3名増）、5月は2名（同比1名増）、6月は2名（同比1名減）、7月は0名（同値）の計12名で（同比3名増）となり、割合でも2.8ﾎﾟｲﾝﾄ増の9.4%となった。月45時間以下の割合では、45.3%と同比1.8ﾎﾟｲﾝﾄの減少となった。 今年度は学習指導要領改訂やＧＩＧＡスクール構想推進下にあり、教材研究や教科会等の業務遂行が主要因として考えられる。自動採点システムの導入や生徒の学習成果物や写真等のオンラインでの共有化、ＷＥＢアンケート化等、一部分掌で活用された業務改善を、他教科や分掌への拡充を図っていく。また、2学期以降は職員会議を行う日は短縮授業を実施し、時間を割かれずに各自の業務に取り組む時間の確保を図る。
学校関係者評価委員会の評価			HPやインスタグラムの細目でタイムリーな配信により、本校生徒の様子がよく伝わってくるので、今後も継続充実すべきである。定員確保のためにも、上級学校進学、きめ細かい指導体制、舟岡寮の所有等を受験生や中学校のみならず保護者にも発信する工夫を図っていくべきである。また、地域に生きる住民として、ボランティア活動や様々な地域の活動にお手伝いをお願いしたい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策			9月、10月の土曜補習授業、11月のいしかわ教育ウィーク時に、中学生の学年不問、保護者も参加可能な学校説明会を計画実施し、本校の特色、魅力の理解を深めてもらう。また、地域の活性化や課題解決に貢献できる人材を育成するために、総合的な探究の時間や課外活動等をとおして、系統的な地域理解や地域課題の探究活動の内容充実を図っていく。		